

最近の経済動向

平成30年12月号

北海道の景気動向(平成30年10月の経済指標を中心として)

一部に北海道胆振東部地震の影響が残るものの、
このところ上向きの動きがみられる

■ 鉱工業生産動向

P 1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きがみられる

■ 需要動向(消費・投資)

P 2 個人消費(百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、
P 3~4 専門量販店販売額、新車登録台数)
回復しつつある

P 4 住宅建設(新設住宅着工戸数)
一部に持ち直しの動きがみられる

P 4~5 公共工事(公共工事請負金額)
減少している

P 5 観光(来道者数)
回復の動きがみられる

P 6 輸出入(輸出入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■ 企業倒産

P 6 企業倒産(件数、負債総額)
件数、負債総額とも前年を下回った

■ 雇用動向

P 7 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、有効求人倍率)
改善が進む中、人手不足感がみられる

P 7 失業(完全失業者数、完全失業率)

■ 物価動向

P 7 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■ 企業の業況感

P 8 企業経営者意識調査
前期から下降している

■ 企業情報

P 9 企業のみなさまから伺いました

■ 地域の経済動向

P 11 道南地域、道央地域、道北地域、オホーツク地域、十勝地域、釧路・根室地域

■ 景気動向指数

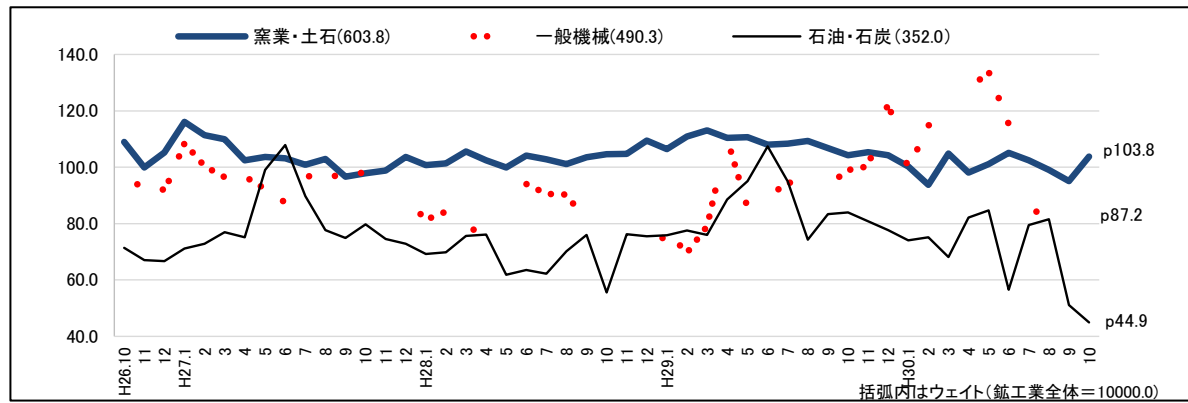
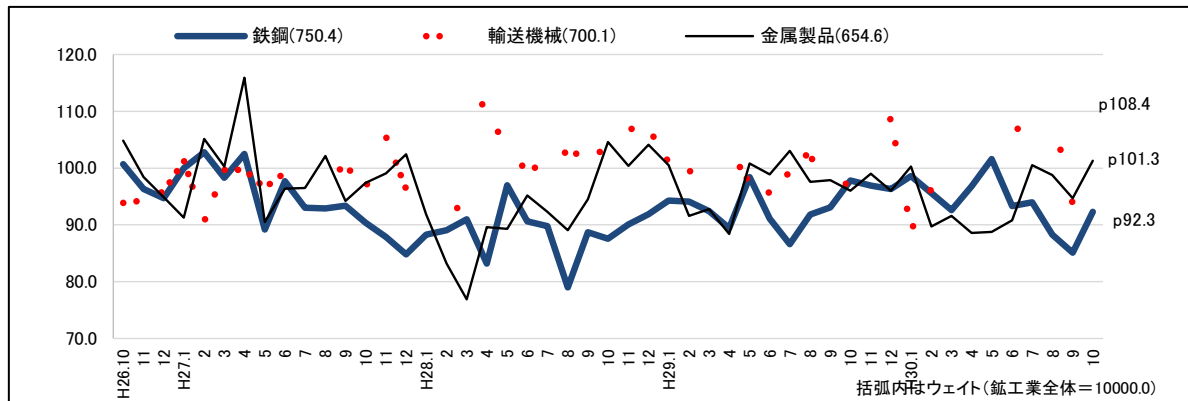
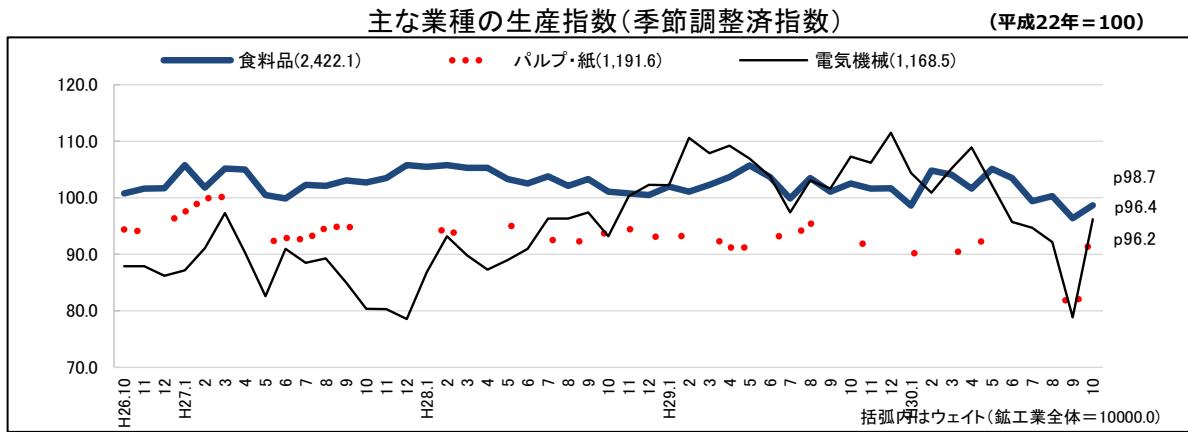
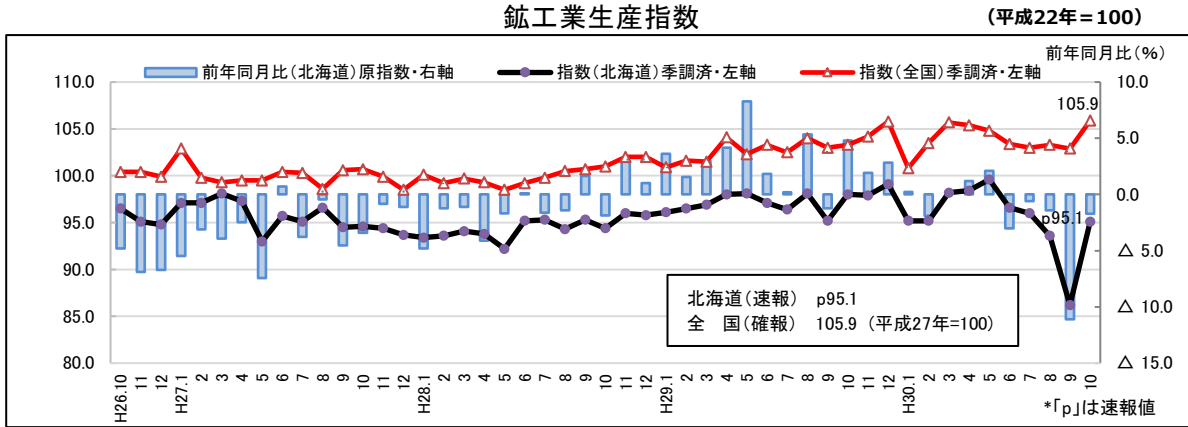
P 17 北海道の景気動向指数

北海道経済部経済企画局経済企画課

■生産活動～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産指数（10月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、95.1で前月比+10.3%(5か月ぶりの上昇)であり、原指数による前年同月比は、△1.7%(3か月連続の低下)となった。業種別にみると、パルプ・紙・紙加工品工業等12業種が前月比上昇、石油・石炭製品工業等の4業種が前月比低下となった。



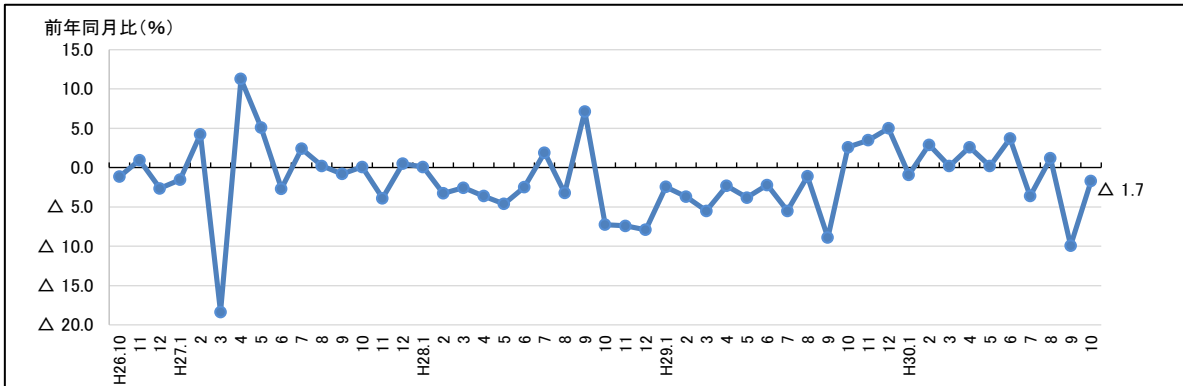
(資料: 北海道経済産業局)

■個人消費～回復しつつある

百貨店販売額(全店ベース)(10月)

百貨店販売額は、162億円で前年同月比1.7%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。品目別にみると、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回った。

百貨店販売額の前年同月比【全店ベース】

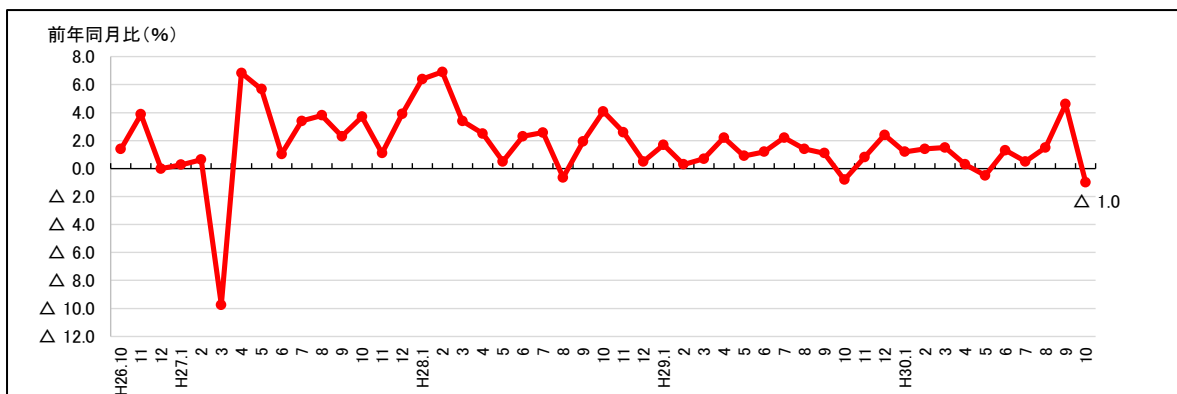


(資料：北海道経済産業局)

スーパー販売額(全店ベース)(10月)

スーパー販売額は、609億円で前年同月比1.0%の減少となり、5か月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を下回った。

スーパー販売額の前年同月比【全店ベース】

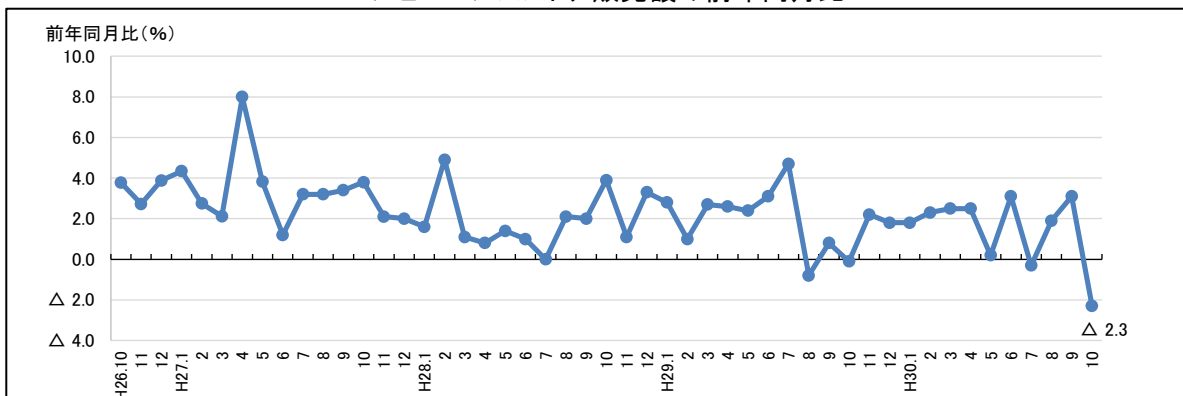


(資料：経済産業省)

コンビニエンスストア販売額(10月)

コンビニエンスストア販売額は、471億円で前年同月比2.3%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。

コンビニエンスストア販売額の前年同月比

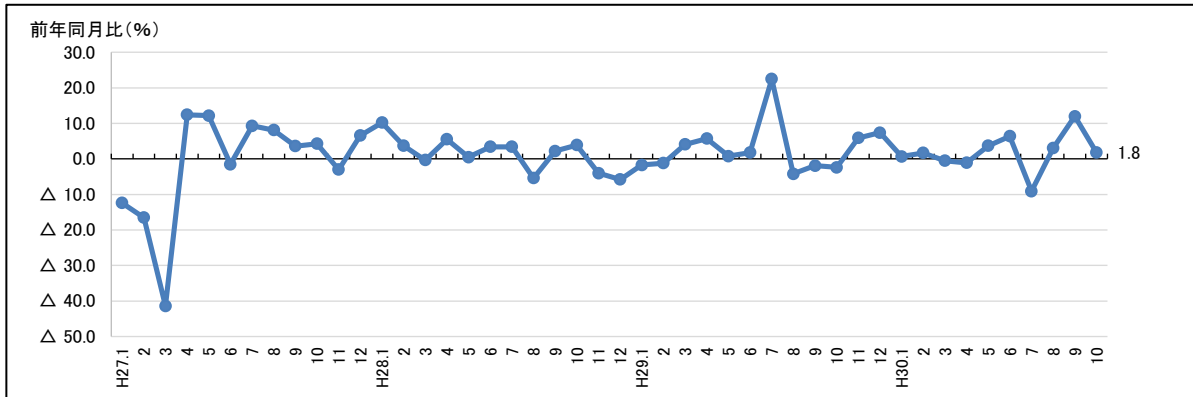


(資料：経済産業省)

家電大型専門店(10月)

家電大型専門店販売額は、108億円で前年同月比1.8%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。

家電大型専門店販売額の前年同月比

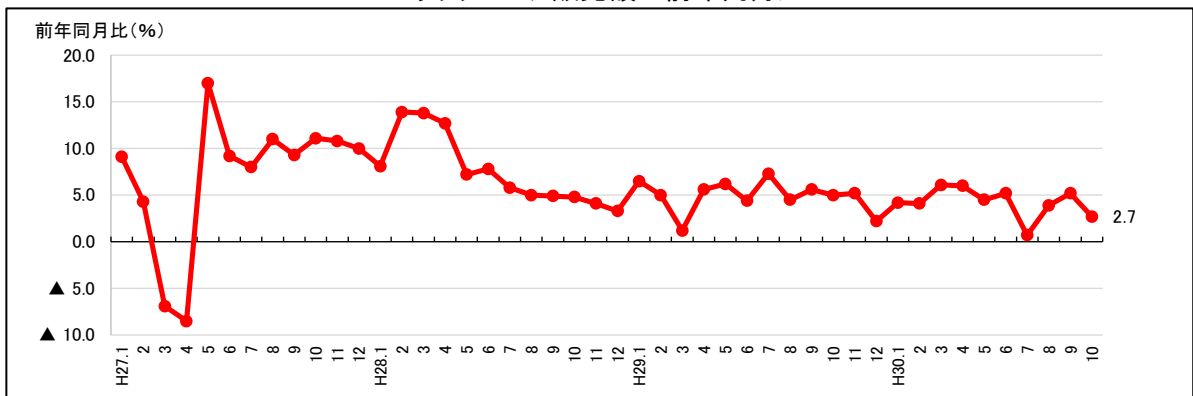


(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額(10月)

ドラッグストア販売額は、217億円で前年同月比2.7%の増加となり、42か月連続で前年を上回った。

ドラッグストア販売額の前年同月比

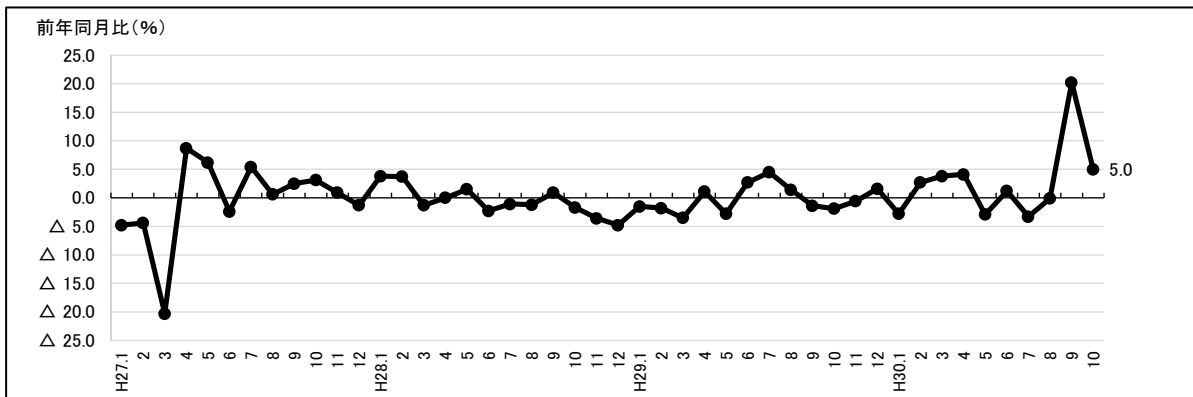


(資料：経済産業省)

ホームセンター(10月)

ホームセンター販売額は、115億円で前年同月比5.0%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

ホームセンター販売額の前年同月比

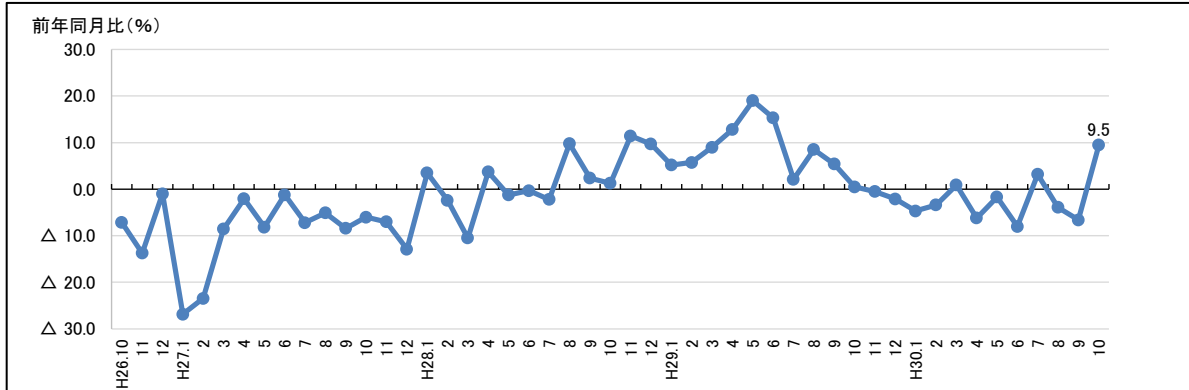


(資料：経済産業省)

新車登録台数（10月）

新車登録台数は、13,649台で前年同月比9.5%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。車種別にみると、普通車は、4,570台で同13.8%の増加、小型車は、4,497台で同6.1%の増加、軽自動車は、4,582台で同8.7%の増加となった。

新車販売台数の前年同月比



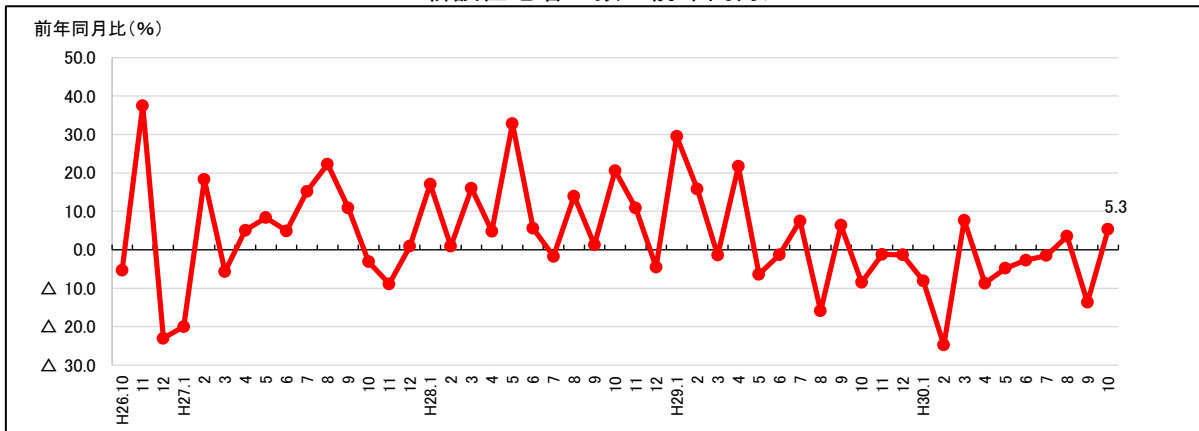
(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会調べ

■住宅建設～一部に持ち直しの動きがみられる

新設住宅着工数（10月）

住宅着工数は、3,846戸で前年同月比5.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。利用関係別にみると、持家は、1,112戸で同6.1%の増加、貸家は、2,098戸で同1.4%の減少、分譲住宅は、597戸で同32.1%の増加となった。

新設住宅着工数の前年同月比



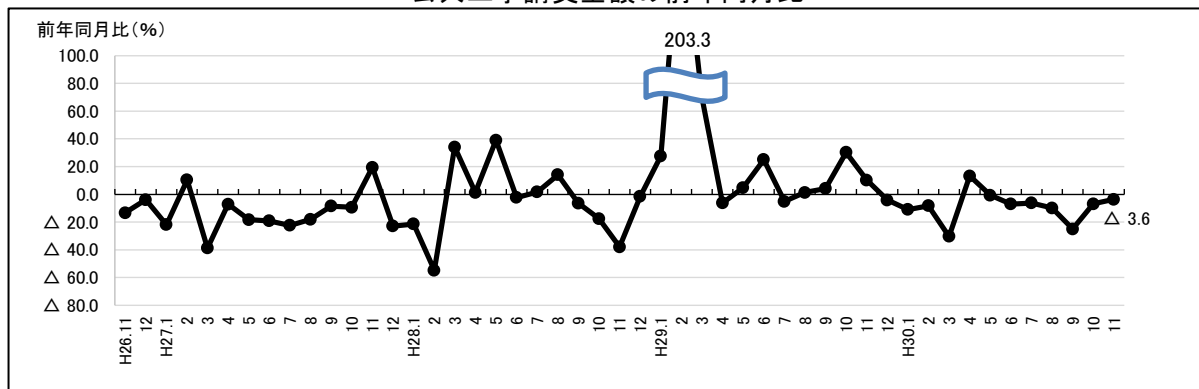
(資料：国土交通省)

■公共工事～減少している

公共工事請負金額（11月）

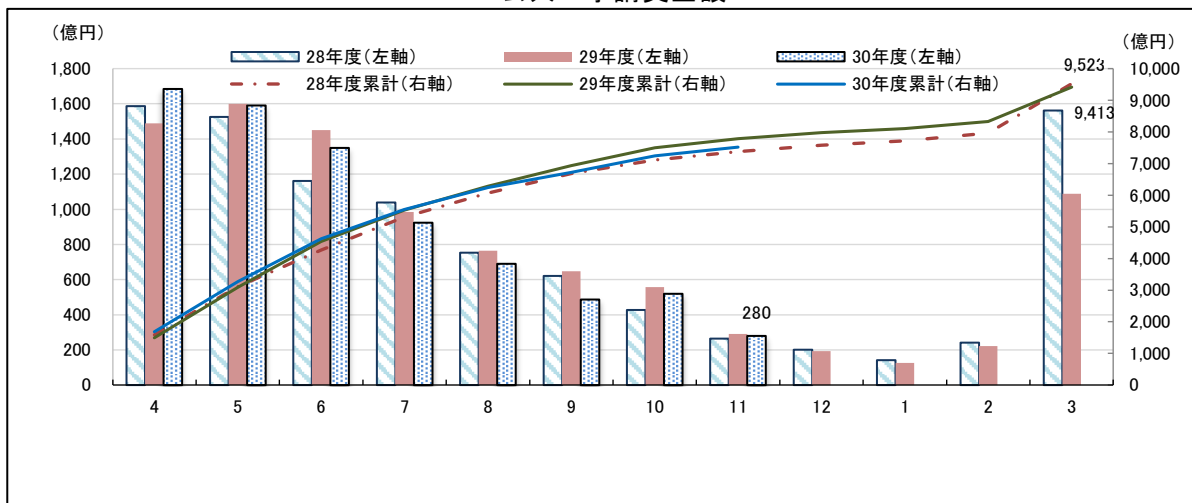
請負金額は、280億円の前年同月比3.6%の減少となり、7か月連続で前年を下回った。工事目的別にみると、治山・治水が93億円(全体の33.5%)、生活基盤が73億円(同26.2%)、産業基盤が65億円(同23.3%)、その他が31億円(同11.2%)、農林・水産が16億円(同5.8%)となっている。

公共工事請負金額の前年同月比



(資料：(株)北海道建設業信用保証)

公共工事請負金額



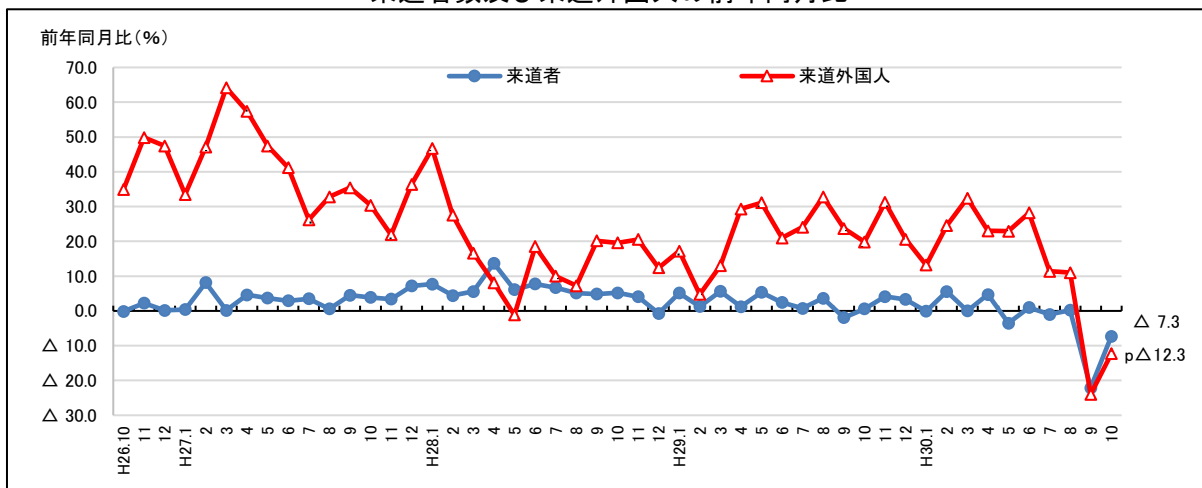
(資料：(株)北海道建設業信用保証)

■ 観光～回復の動きがみられる

来道者数(10月)

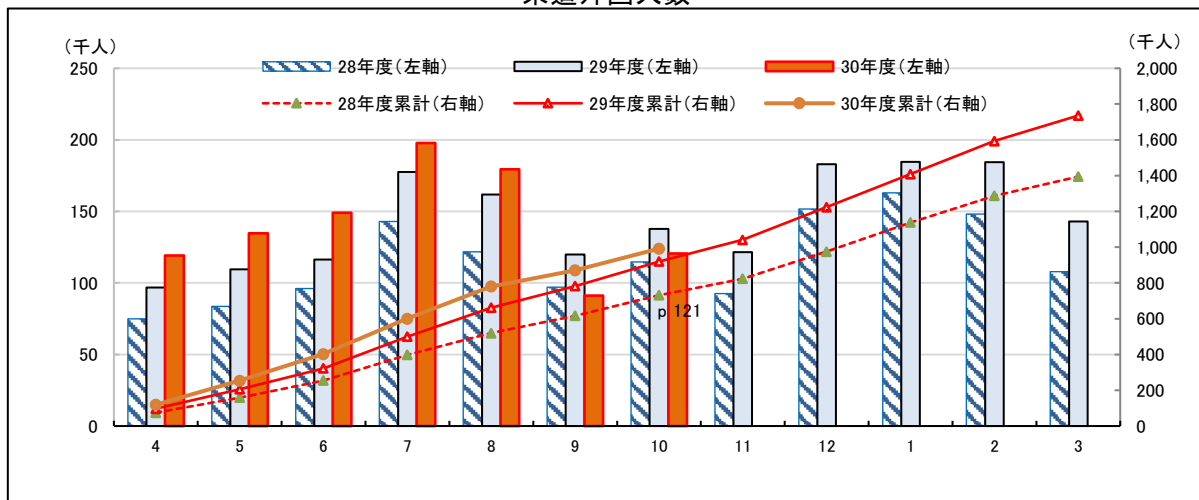
来道者数は、113万2千人で前年同月比7.3%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。本道に直接入国した外国人は、12万1千人で同12.3%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。

来道者数及び来道外国人の前年同月比



(資料：(公社)北海道観光振興機構、法務省入国管理局)

来道外国人数



(資料：法務省入国管理局)

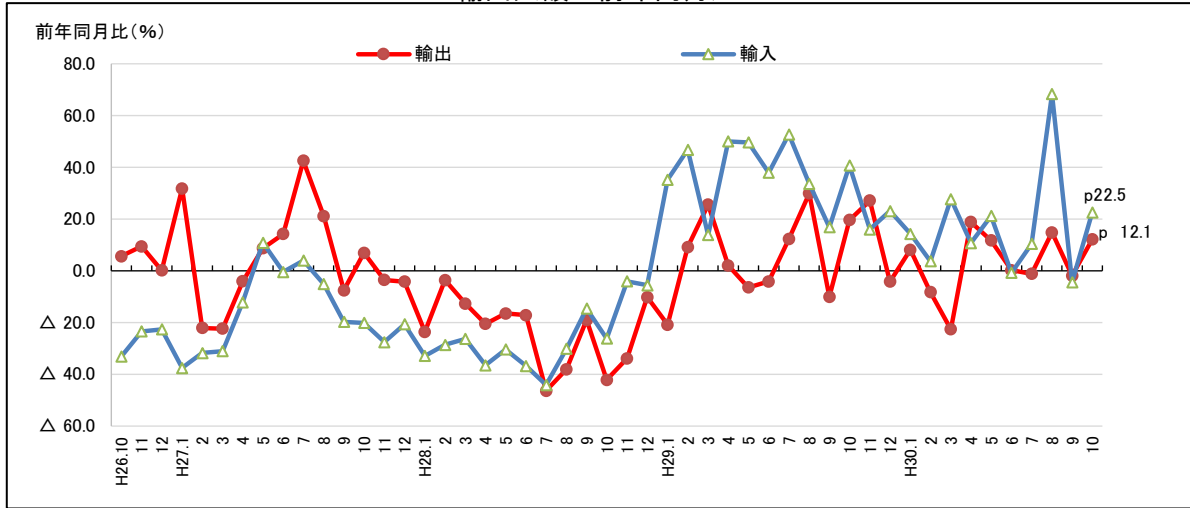
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

輸出入額（10月）

輸出額は、352億円で前年同月比12.1%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。品目別にみると、自動車の部分品、鉄鋼くずなどが減少したものの、一般機械、魚介類・同調製品、電気機器などが増加した。

輸入額は、1,160億円で同22.5%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。品目別にみると、原油・粗油、魚介類・同調製品などが減少したものの、石油製品、石油ガス類、再輸入品などが増加した。

輸出入額の前年同月比



(資料: 函館税関)

■企業倒産～件数、負債総額とも前年を下回った

企業倒産（11月）

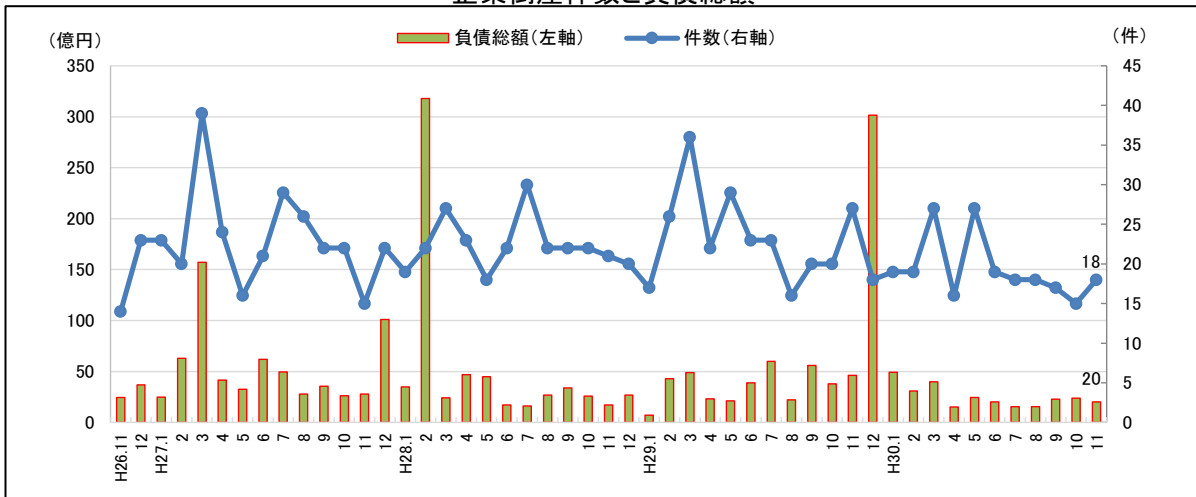
企業倒産件数は、18件で前年同月比33.3%の減少となり、3か月連続で前年を下回り、負債総額は、20億円と同56.8%の減少となり、6か月連続で前年を下回った。

原因別でみると、販売不振が12件(66.7%)と半数以上を占めた。

業種別でみると、サービス・他が7件(38.9%)、小売業が6件(33.3%)、建設業が2件(11.1%)と続いた。

企業倒産件数と負債総額

(負債額1,000万以上の企業倒産)



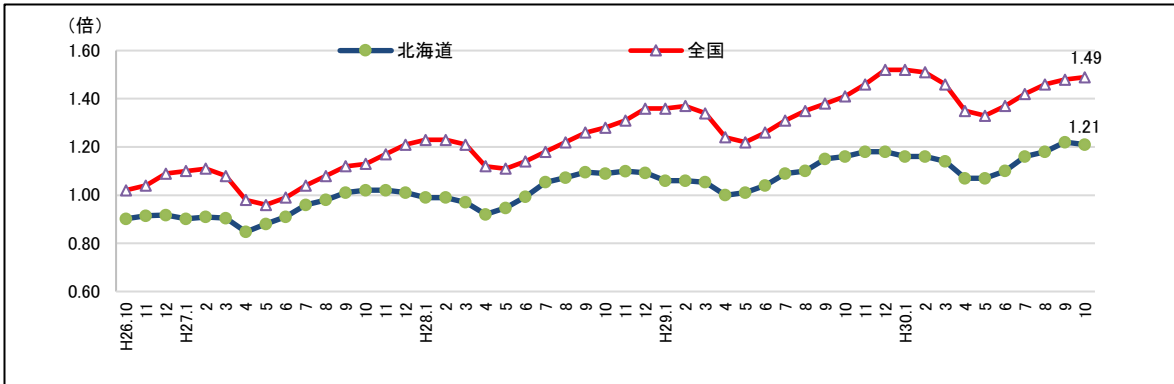
(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～改善が進む中、人手不足感がみられる

月間有効求人数・求職者数・有効求人倍率（10月）

月間有効求人数は、9万3,782人で前年同月比0.7%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。
 月間有効求職者数は、7万7,457人で同3.6%の減少となり、84か月連続で前年を下回った。
 有効求人倍率は、1.21倍で前年同月差で0.05ポイントの増加となり、105か月連続で前年を上回った。

有効求人倍率(常用)



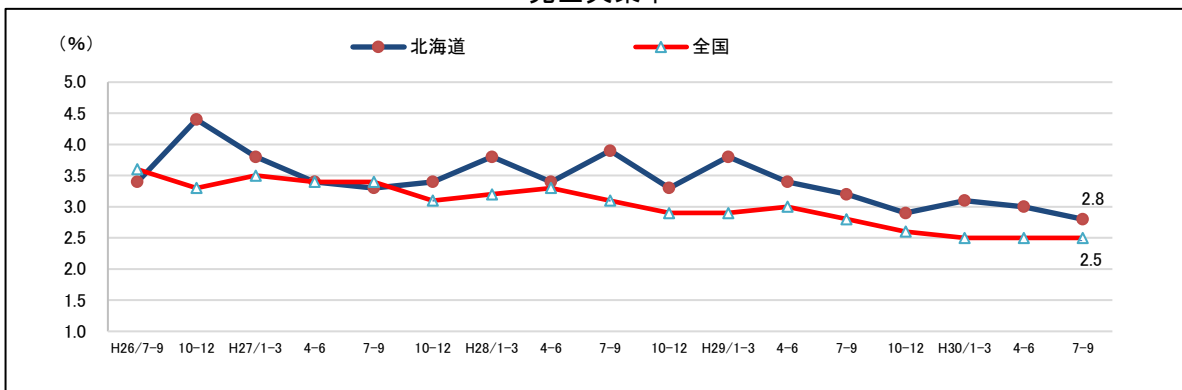
(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

■失 業

完全失業者数、完全失業率(30年7-9月期)

完全失業者数は、8万人で前年同期と比べ、1万人減少となっている。
 完全失業率は、2.8%で前年同期と比べ、0.4ポイント低下となっている。

完全失業率



(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

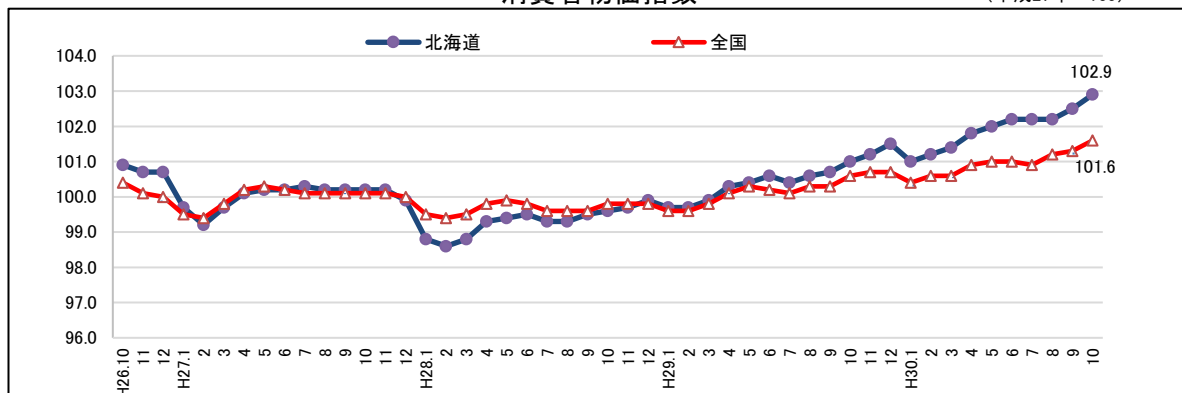
■物 価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数(生鮮食品除く)(10月)

消費者物価指数は、102.9で前年同月比1.9%の上昇となり、23か月連続で前年を上回った。

消費者物価指数

(平成27年=100)



(資料:総務省)

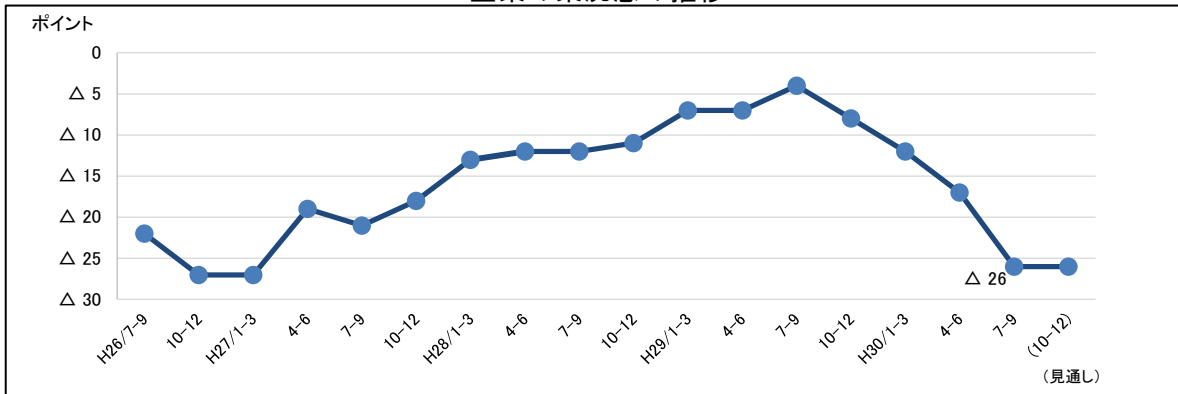
■企業の業況感

企業経営者意識調査（30年7-9月期）

今期の業況感BSIは、 $\Delta 26$ で前期から9ポイント下降した。

- ・業種別では、建設業、製造業で上昇、卸売・小売業、運輸業、サービス業で下降した。
- ・地域別では、釧路・根室で上昇、道北で横ばい、道南、道央、オホーツク、十勝で下降した。

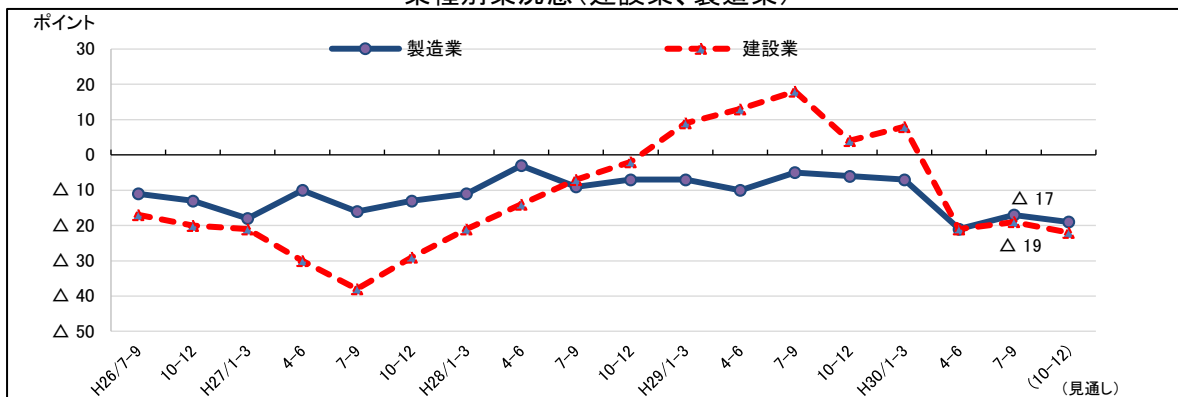
企業の業況感の推移



(見通し)

(資料:北海道)

業種別業況感(建設業、製造業)



(見通し)

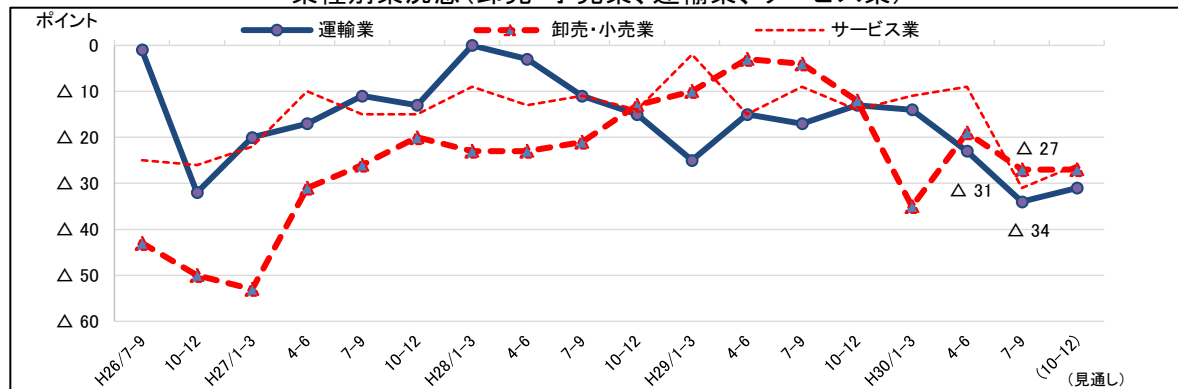
【建設業】 2ポイント上昇 (前期 $\Delta 21$ → 今期 $\Delta 19$) (資料:北海道)

- ・一般土木建築工事業や建築工事業、電気工事業、管工事業でマイナス幅が縮小
- ・塗装工事業でプラス幅が縮小、土木工事業や舗装工事業、木造建築工事業でマイナス幅が拡大

【製造業】 4ポイント上昇 (前期 $\Delta 21$ → 今期 $\Delta 17$)

- ・水産食料品製造業や建設用・建築用金属製品製造業などがプラスに転換
- ・野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業や精穀・製粉業、船舶製造・修理業、船用機関製造業などでマイナスが縮小
- ・セメント・同製品製造業やパン・菓子製造業、畜産食料品製造業などでマイナス幅が拡大

業種別業況感(卸売・小売業、運輸業、サービス業)



(見通し)

【卸売・小売業】 8ポイント下降 (前期 $\Delta 19$ → 今期 $\Delta 27$) (資料:北海道)

- ・化学製品卸売業がマイナスに転換
- ・鉄鋼製品卸売業や家具・建具・じゅう器等卸売業でプラス幅が縮小
- ・農畜産物・水産物卸売業や自動車小売業、燃料小売業などでマイナス幅が拡大

【運輸業】 11ポイント下降 (前期 $\Delta 23$ → 今期 $\Delta 34$)

- ・一般乗合旅客自動車運送業や一般貸切旅客自動車運送業、一般貨物自動車運送業、冷蔵倉庫業でマイナス幅が拡大

【サービス業】 22ポイント下降 (前期 $\Delta 9$ → 今期 $\Delta 31$)

- ・産業用機械器具賃貸業でプラス幅が縮小
- ・食堂・レストラン(専門店料理を除く)や洗濯物取次業などがマイナスに転換
- ・旅館・ホテル業や自動車整備業、情報処理・提供サービス業、建築設計業などでマイナス幅が拡大

[企業情報]

□企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【降雪前は苦戦したが、降雪後は堅調に推移した】

11月は、雪が降る20日頃までは冬物の動きが鈍く苦戦したが、降雪後は順調に伸び、全体の売上は堅調に推移した。胆振東部地震による一時的な落ち込みはあったものの、現在は震災前と同等に戻っているため、影響はないと考えている。

また、インバウンド需要については、これまで人気のあった宝飾品や特選ブティック等は落ち着きつつあるものの、化粧品等の消耗品は変わらず好調な売上となっている。

◆スーパー（道央地域）

【来店客数、売上ともに前年並】

11月は、祝日と土曜日が重なったが、客数、売上ともに前年並みを維持できた。

水産については、昨年との記録的な不漁時との比較となるが、単価も下がり、点数も売上も伸びている。

生鮮品（水産物）、肉・ハム類、酒類などのギフトが好調となっているほか、11月中旬から始まったお節料理の予約についても、順調に推移している。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【客足は堅調に推移】

11月は、9月の震災で買いだめされた米やインスタント食品などの商品と煙草の値上げ前の駆け込み需要の反動が若干見られたものの、平年より平均気温が高く、降水量も少なかったため、飲料水やビール、サワーといった気温で変動する商品が好調であり、また、中食も増加したことから全般的に客足は堅調だった。

【地域の動き】

一昨年道東を襲った台風被害の復興工事は一段落したものの、胆振東部地震の被災地の復興が始まっており、工事関係者の動きが出ている。

◆家電大型専門店（道央地域）

【最近の売上状況】

地震後の防災用品の需要が落ち着いて、11月からは趣味、嗜好品の購買に切り替わる動きがみられた。

11月の売上は、クリスマス需要、忘年会の景品などでパソコン、タブレット、新作のゲーム機などが好調だった。

【外国人客の売上が持ち直しの動き】

9月、10月の外国人客の売上は落ち込みがみられたが、11月中旬から外国人の売上が持ち直しており、薬、化粧品、美容家電などが好調となっている。

◆卸売業（道央地域）

【最近の売上状況】

今年は、公共工事では、ダム整備の生コンの売上などが増加した。

建築工事については、札幌の再開発事業、マンション建設などが堅調だが、資材については、東京オリンピック関係の建築需要が絶好調のため、価格が高騰している他、入手困難な状況が続いている。

北海道では特に新幹線の札幌延伸に関連して札幌駅前、狸小路・大通り地区の再開発など、ここ数年は、建築需要が堅調なので期待している。

【人手不足と外国人の採用】

人手不足のため売り手市場であり、安定した人材確保が困難な状況となっている。
人材をどれだけ採用できるかも大事だが、どうやって育てていくかが大事。

外国人の事務員を数名採用しているが、日本語も堪能だが、数カ国語話せるので、外国との交渉の際は、重宝している。外国人についても優秀な人材は採用していきたい。

◆宿泊業（道央地域）

【最近の宿泊状況】

11月は、国内客は「北海道ふっこう割」の効果で回復しており、また、外国人客は前年並みに持ち直しつつある。

人気グループによるコンサートの開催や韓国のLCCの定期就航便も震災前の本数に戻り、国内・海外客の回復の追い風になった。

【先行き】

12月～1月の宿泊予約数は、前年同月比で国内客、外国人客どちらも好調に推移する見込み。

【人手の確保が難しい】

特に清掃員が集まりづらくなか外国人雇用に期待をしている。

また、外国人客の増加と共に、言語でのコミュニケーションが重要となっており、外国人の従業員はフロントなどをメインに今後も採用していく方針。

◆建設業（道央地域）

【最近の売上状況】

十勝地域の災害復興の公共工事が落ち着き、30年度は、後志地域ではコンドミニアム、ホテルなどの観光施設や札幌ではマンションなどの建築工事が好調。

資材費や人件費の上昇で、マンション価格は高騰しているが、消費税が増税になる前に、マンションの購買契約を済ませたいという動きもみられている。

◆宿泊業（十勝地域）

【震災から回復基調】

宿泊者数は9月の震災前までは前年並みで推移していたが、震災後の9、10月は大きく落ち込んだ。震災後に取り組んだキャンペーンやふっこう割等の効果もあって、現状は震災前まで回復していると感じているが、落ち込み分を取り戻すまでには至っていない。また、インバウンドについては、まだ回復が遅れ気味である。今後、ふっこう割の期限が切れる3月にリバウンドにより、再び宿泊者数が落ち込むことを懸念している。

【人手不足は深刻】

求人については、ホームページやパンフレットの作成、求人誌への掲載、インターンシップの受け入れなどに取り組んではいるが人手を集めるのに苦労している。外国人労働者も雇用しているが、日本人を中心に採用していきたい。

◆食料品製造業（十勝地域）

【原材料など仕入価格の動向】

原料となる農産物の国内で消費される大半は輸入品であるため、使用している道産品も海外産の価格の影響を受けるが、米中貿易摩擦の影響などもあり、現在は値下がり傾向にある。一方で、原油高の影響により、包装資材や輸送費が値上がりしており、収益を圧迫する要因となっている。

【地産地消による取組】

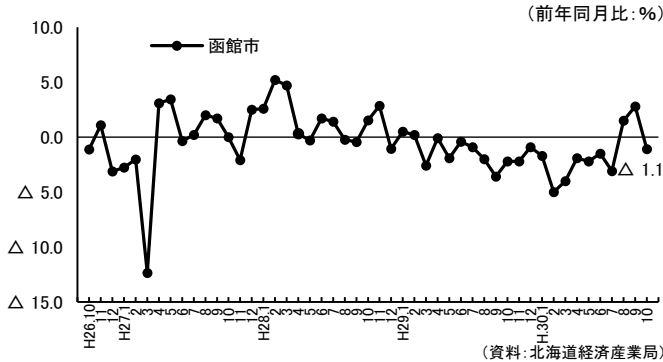
輸送コストを下げるためには、道央圏などの消費地に商品を送るのではなく、地産地消による地元の購買力を高める必要があることから、商品の購買頻度や点数を上げるような取組を行っていきたい。

[地域の経済動向]

■道南地域(渡島、檜山)

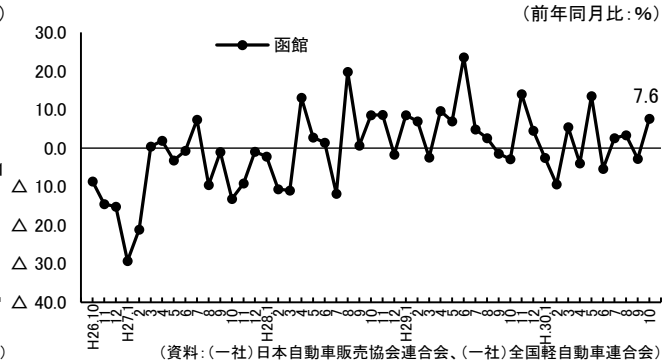
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(10月)

3か月ぶりに前年を下回った



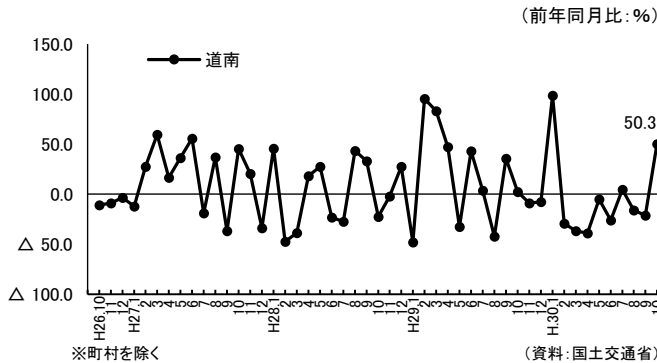
◆新車登録台数(乗用車)(10月)

2か月ぶりに前年を上回った



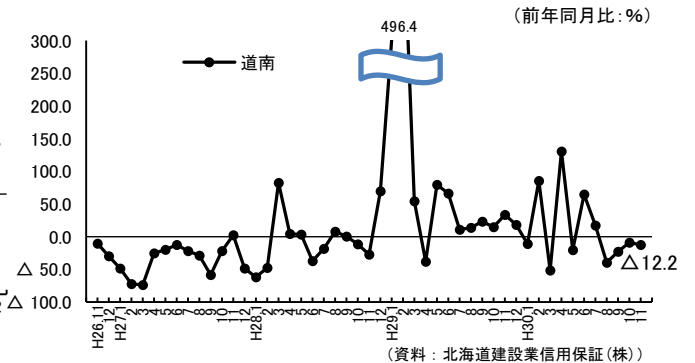
◆新設住宅着工戸数(10月)

3か月ぶりに前年を上回った



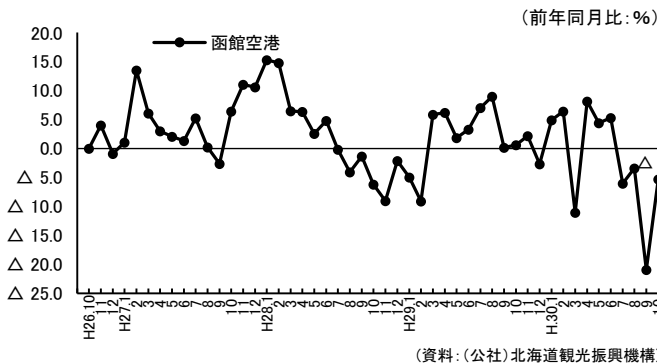
◆公共工事請負金額(11月)

4か月連続で前年を下回った



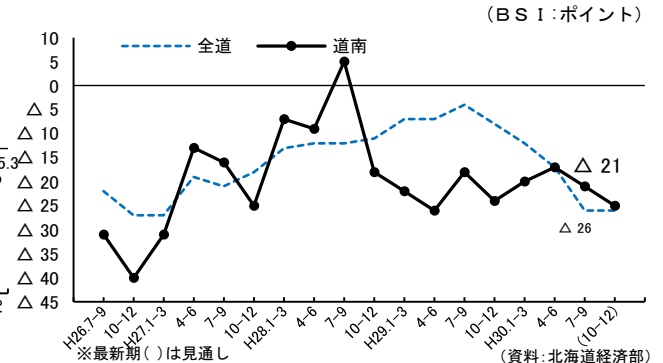
◆航空機利用による来道者数(着地別)(10月)

4か月連続で前年を下回った



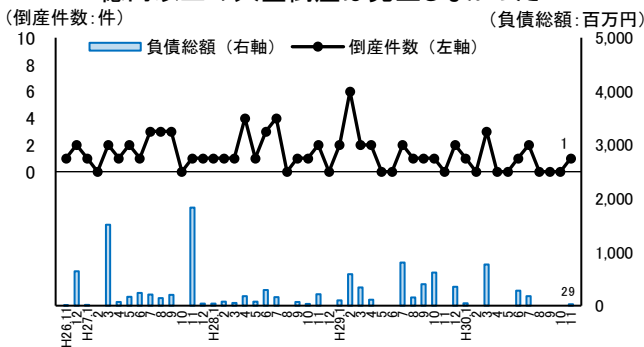
◆企業の業況感(7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した



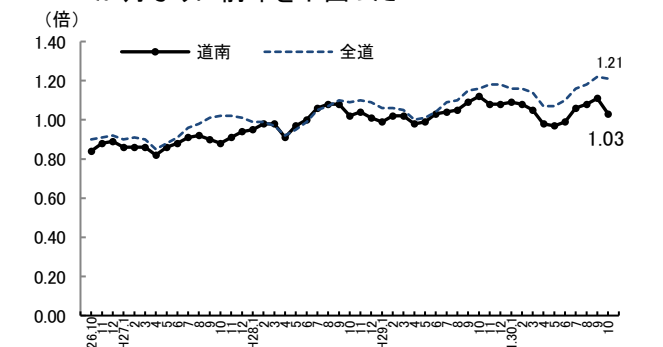
◆企業倒産件数・負債総額(11月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(10月)

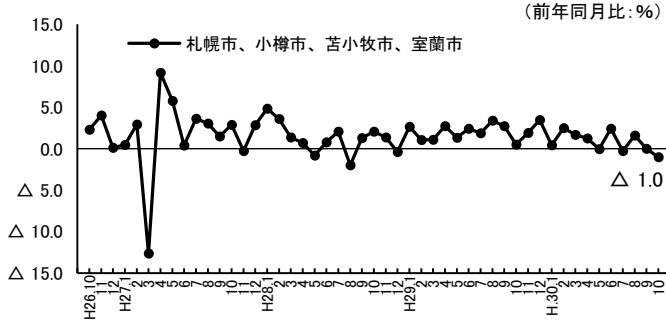
4か月ぶりに前年を下回った



■道央地域（石狩、空知、後志、胆振、日高）

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(10月)

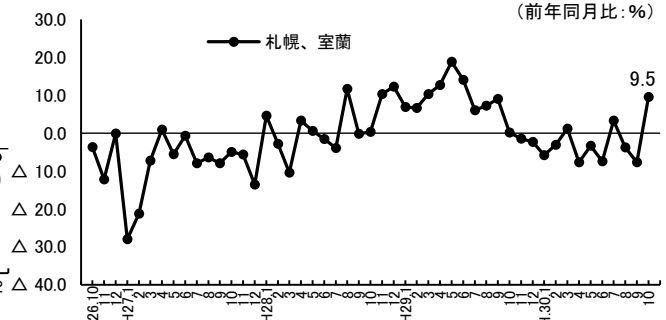
2か月連続で前年を下回った



(資料:北海道経済産業局)

◆新車登録台数(乗用車)(10月)

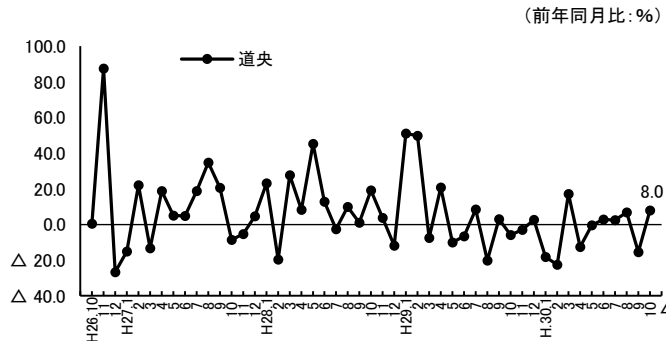
3か月ぶりに前年を上回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数(10月)

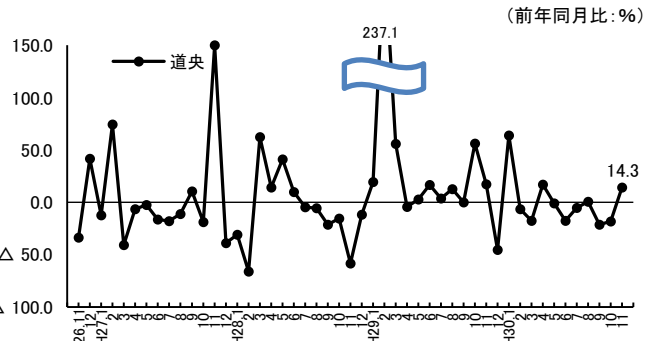
2か月ぶりに前年を上回った



(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額(11月)

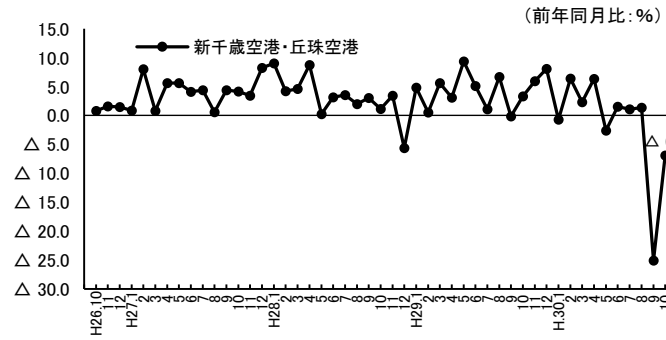
3か月ぶりに前年を上回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別)(10月)

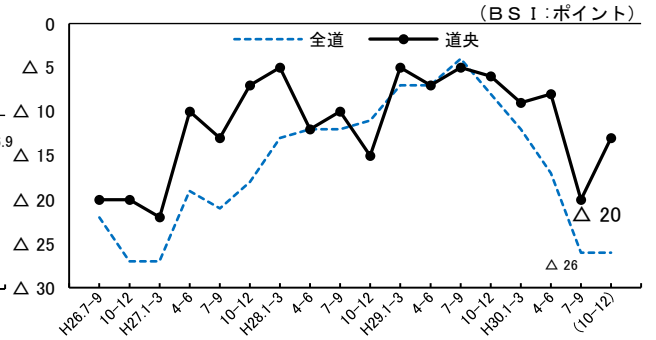
2か月連続で前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感(7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した

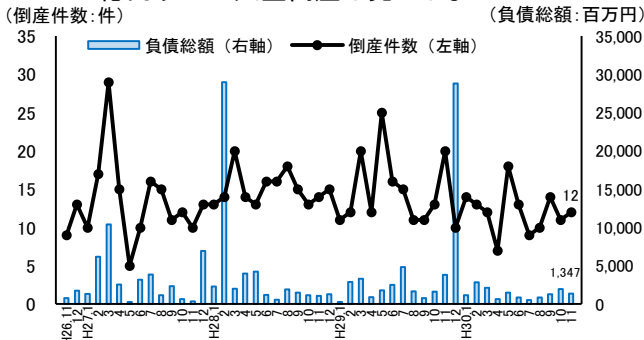


※最新期()は見通し

(資料:北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額(11月)

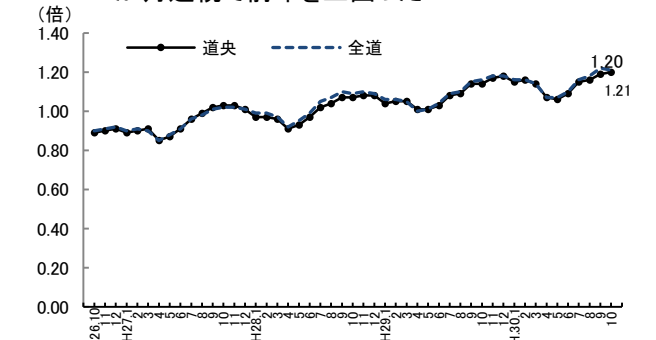
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

◆有効求人倍率(常用)(10月)

104か月連続で前年を上回った

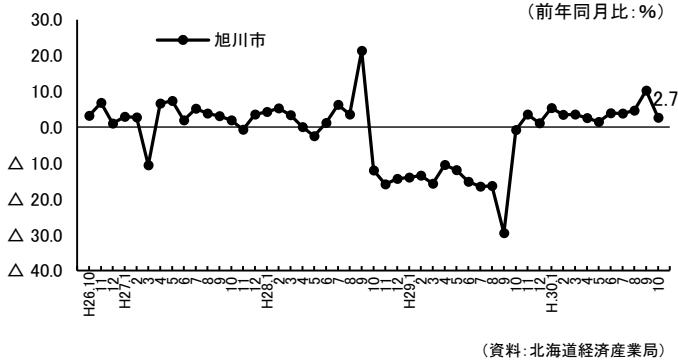


(資料:北海道労働局)

道北地域(留萌、上川、宗谷)

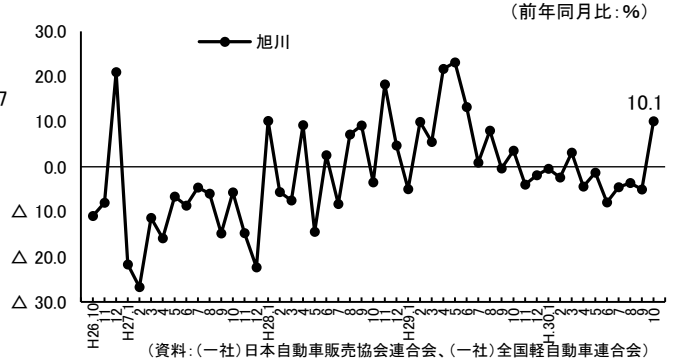
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(10月)

12か月連続で前年を上回った



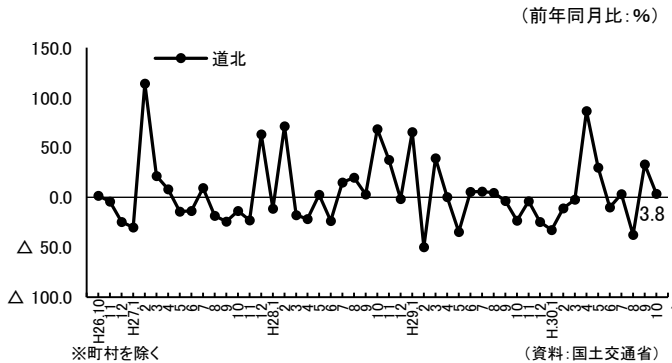
◆新車登録台数(乗用車)(10月)

7か月ぶりに前年を上回った



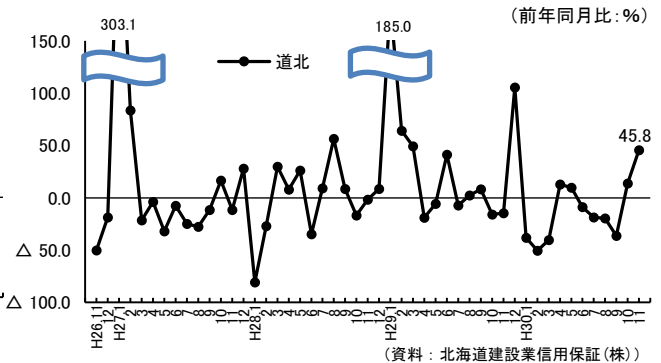
◆新設住宅着工戸数(10月)

2か月連続で前年を上回った



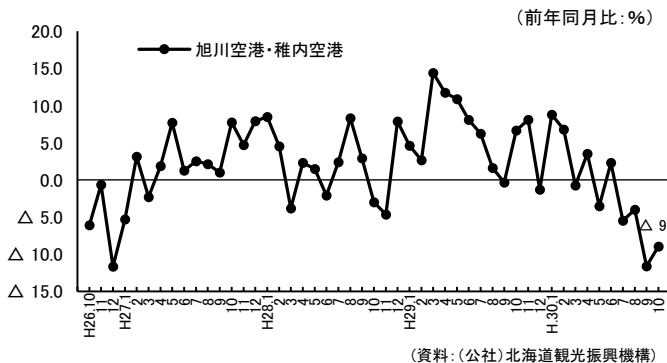
◆公共工事請負金額(11月)

2か月連続で前年を上回った



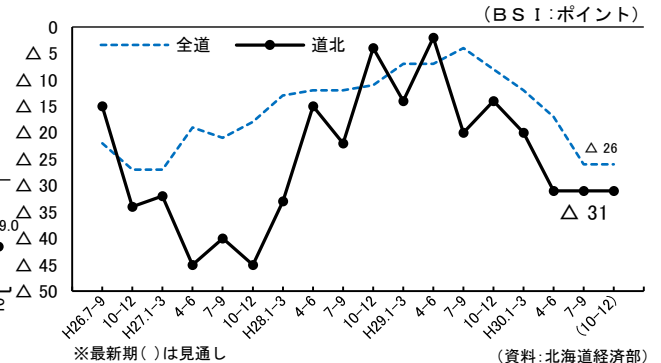
◆航空機利用による来道者数(着地別)(10月)

4か月連続で前年を下回った



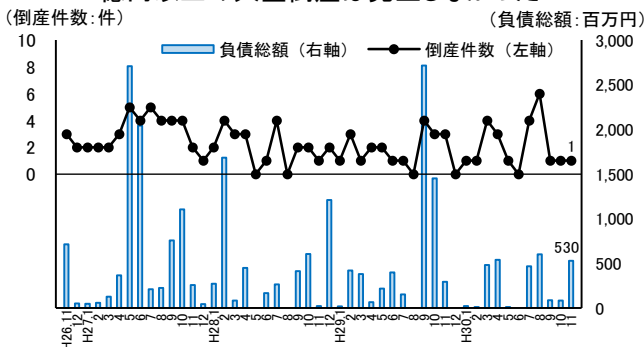
◆企業の業況感(7-9月期)

前期と同じ水準だった



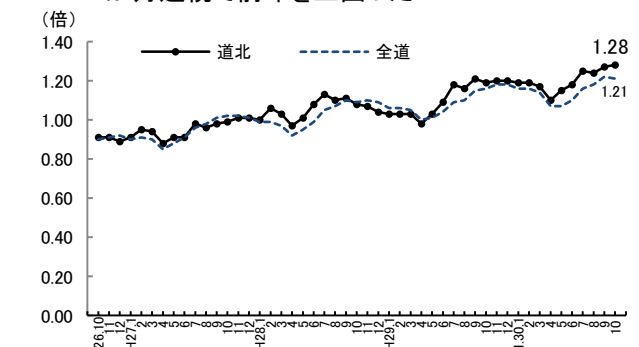
◆企業倒産件数・負債総額(11月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(10月)

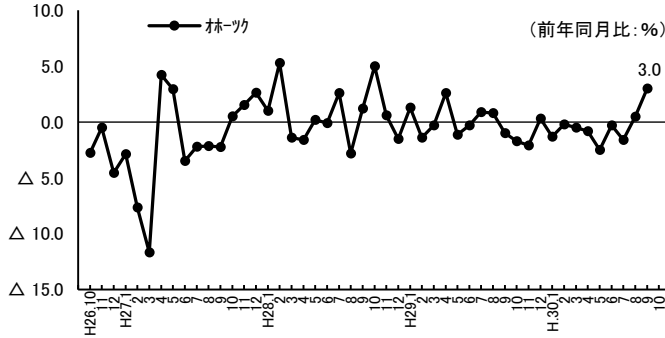
19か月連続で前年を上回った



オホーツク地域

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース) (9月)

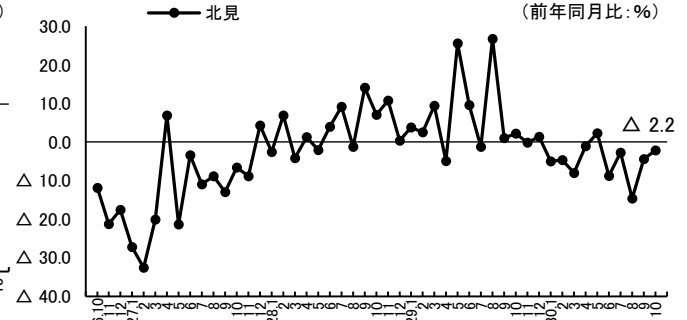
2か月連続で前年を上回った



(資料:北海道財務局北見出張所)

◆新車登録台数(乗用車) (10月)

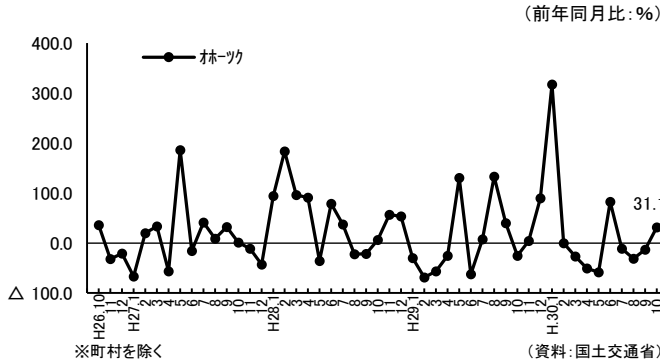
5か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (10月)

4か月ぶりに前年を上回った

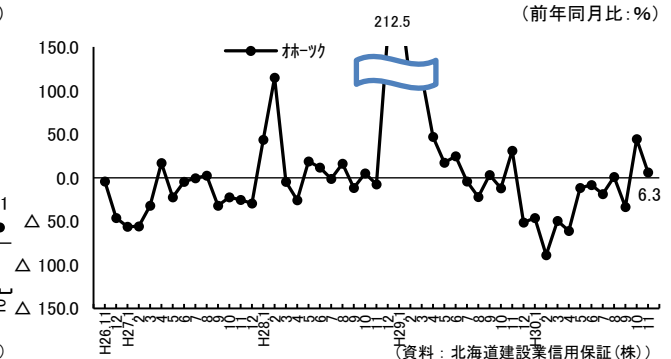


※町村を除く

(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額 (11月)

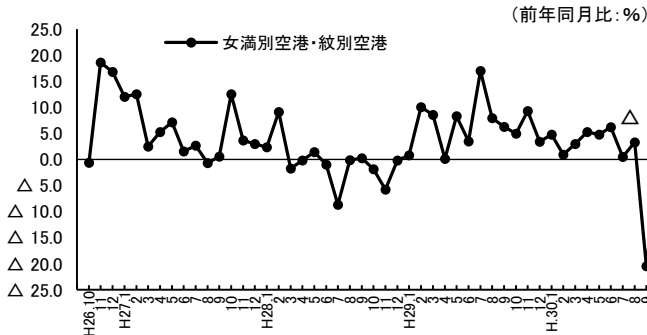
2か月連続で前年を上回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着別) (10月)

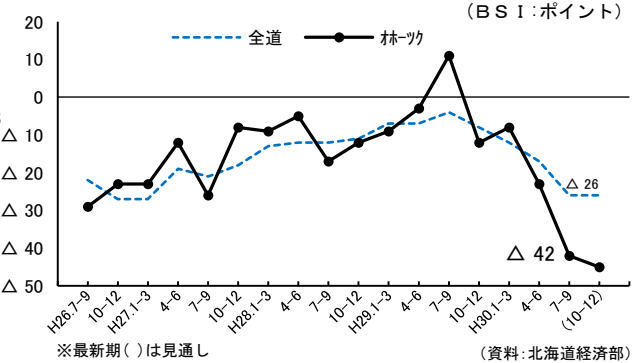
2か月連続で前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した

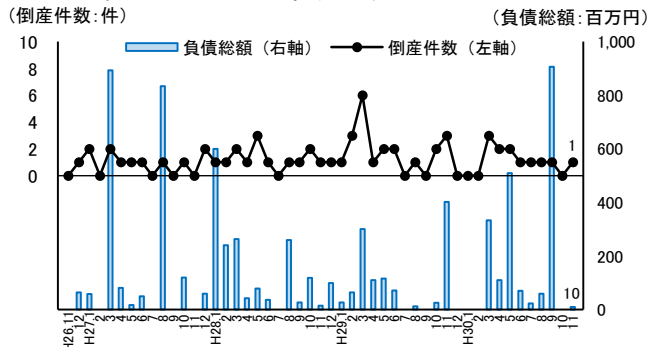


※最新期()は見通し

(資料:北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額 (11月)

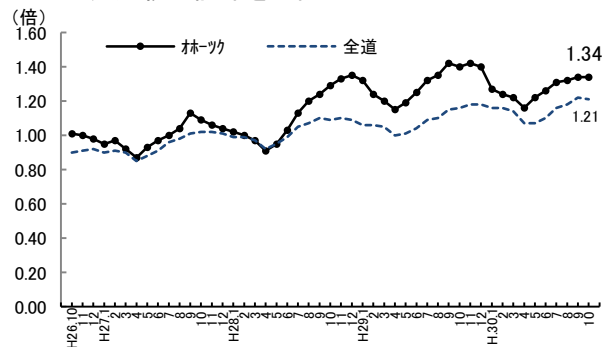
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社) - 14 -

◆有効求人倍率(常用) (10月)

4か月連続で前年を下回った

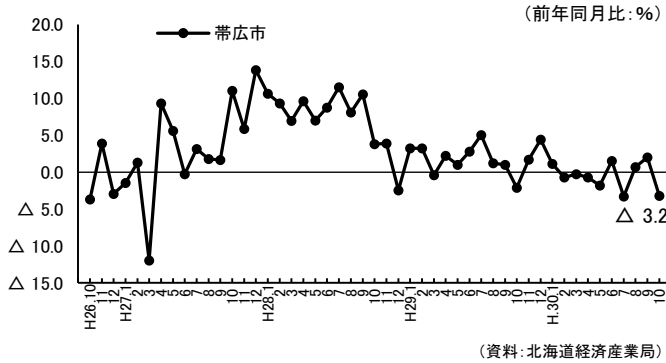


(資料:北海道労働局)

十勝地域

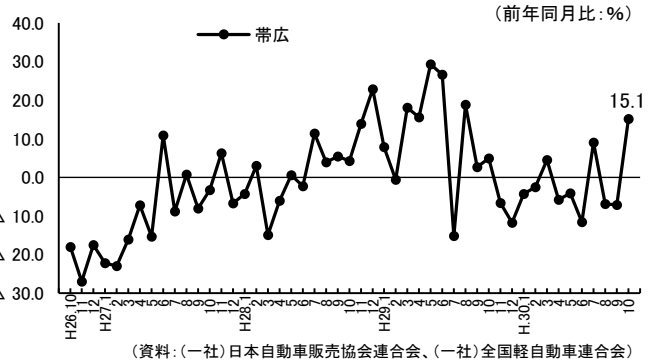
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(10月)

3か月ぶりに前年を下回った



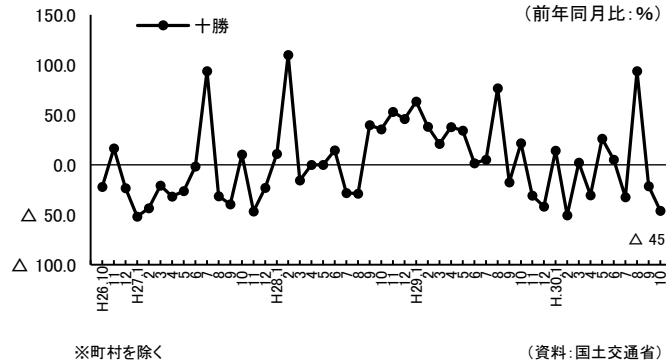
◆新車登録台数(乗用車)(10月)

3か月ぶりに前年を上回った



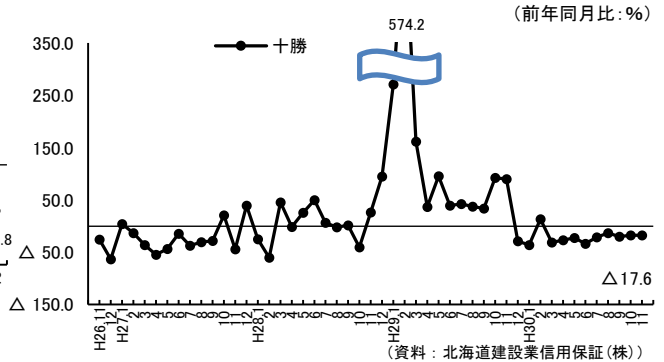
◆新設住宅着工戸数(10月)

2か月連続で前年を下回った



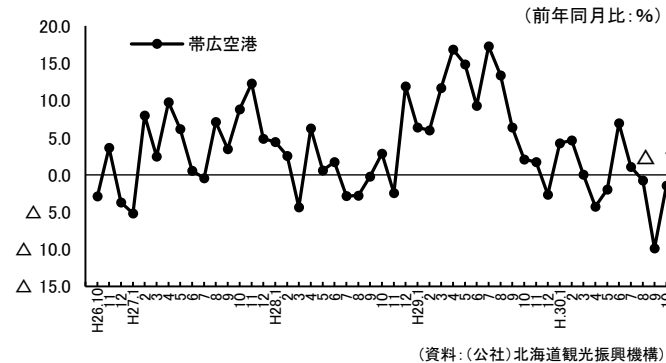
◆公共工事請負金額(11月)

9か月連続で前年を下回った



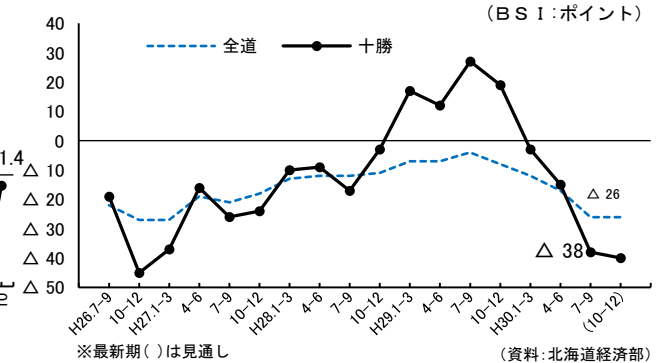
◆航空機利用による来道者数(着地別)(10月)

3か月連続で前年を下回った



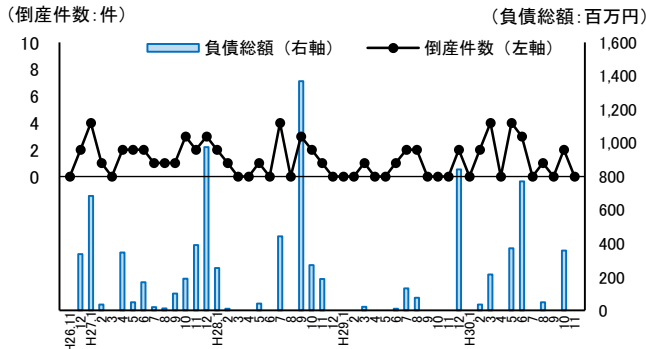
◆企業の業況感(7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した



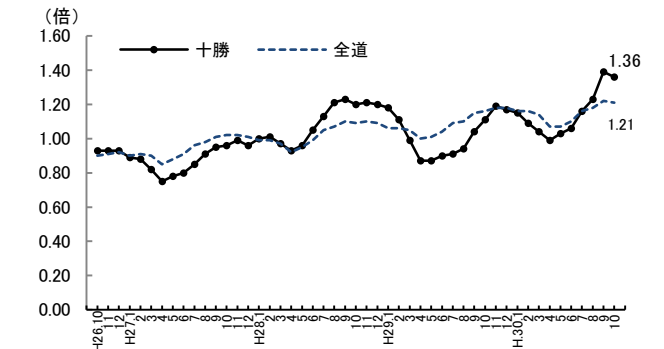
◆企業倒産件数・負債総額(11月)

倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(10月)

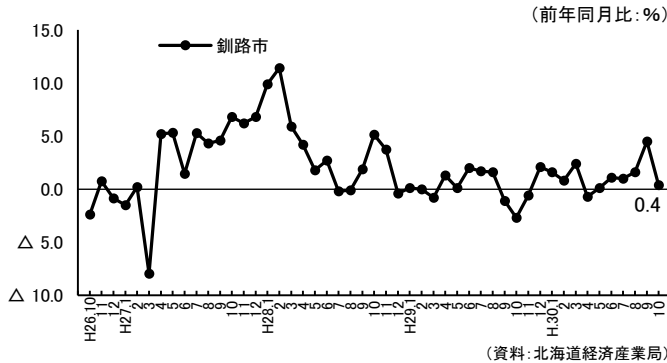
8か月連続で前年を上回った



釧路・根室地域

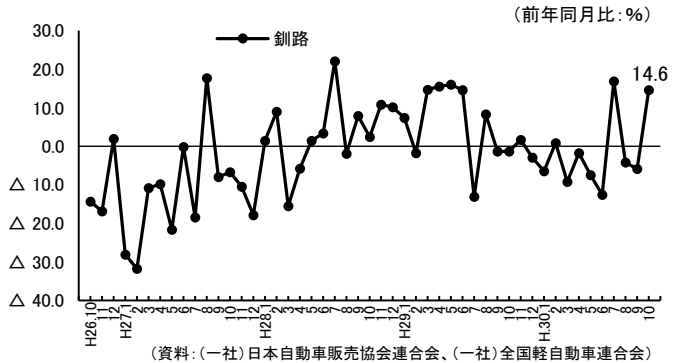
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(10月)

6か月連続で前年を上回った



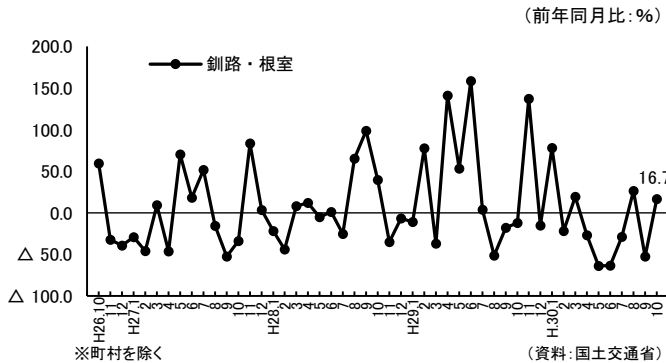
◆新車登録台数(乗用車)(10月)

3か月ぶりに前年を上回った



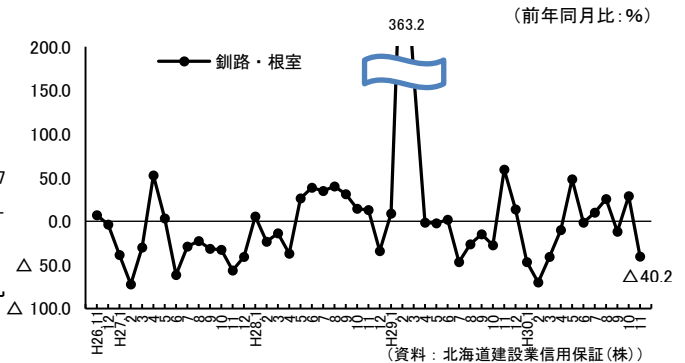
◆新設住宅着工戸数(10月)

2か月ぶりに前年を上回った



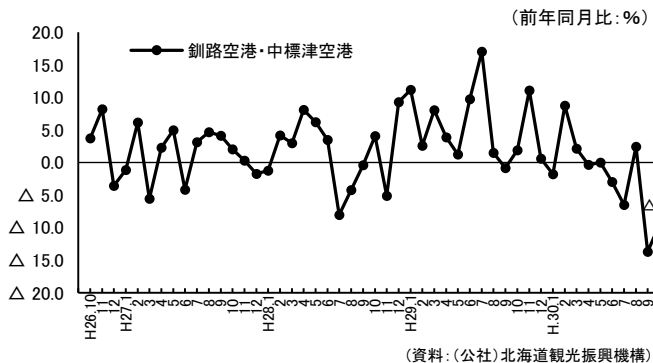
◆公共工事請負金額(11月)

2か月ぶりに前年を下回った



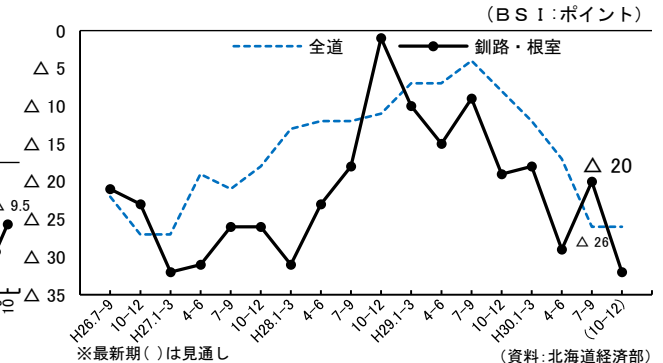
◆航空機利用による来道者数(着地別)(10月)

2か月連続で前年を下回った



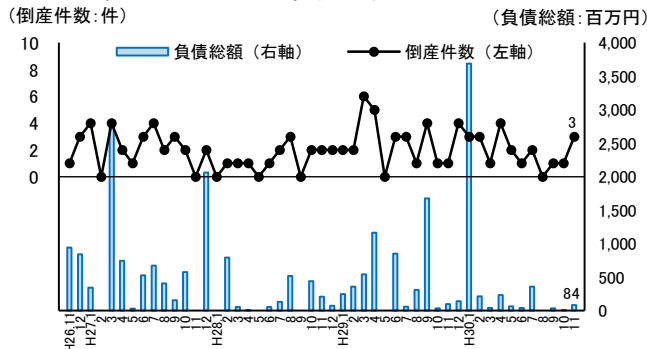
◆企業の業況感(7-9月期)

前期からマイナス幅が縮小した



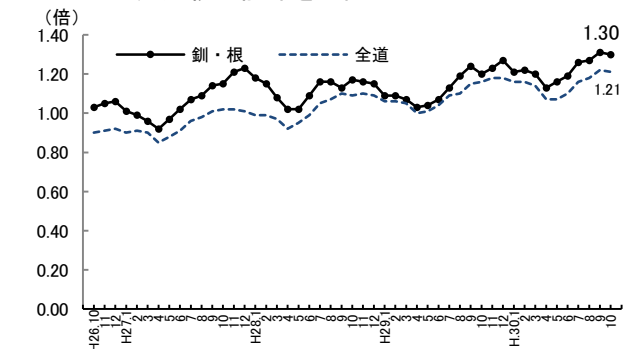
◆企業倒産件数・負債総額(11月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(10月)

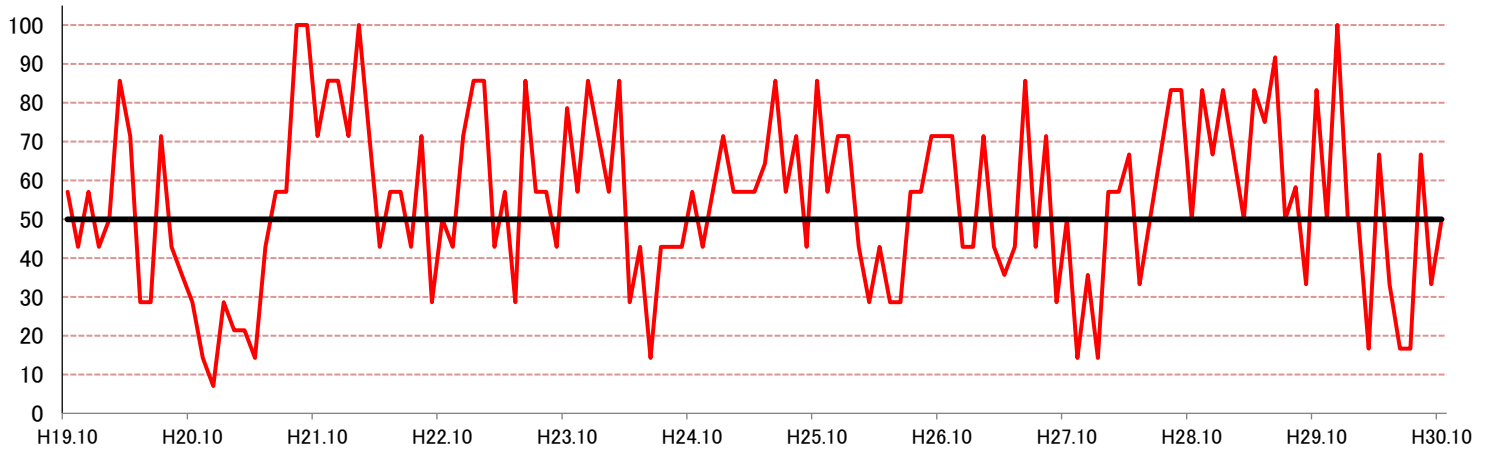
15か月連続で前年を上回った



[景気動向指数]

■ 北海道の景気動向指数

景気動向指数(一致系列)グラフ



景気動向指数(先行・一致・遅行)変化

系列名		29/ 10月	11月	12月	30/ 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
先行系	新規求人数(新規学卒を除く全数)	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+
	雇用保険受給者実人員(逆サイクル)	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-	+
	生産指数(生産財)	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	r -	p +
	新車登録台数(軽を含む乗用車)	-	-	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-	+
	新設住宅着工戸数	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+
	企業倒産件数(逆サイクル)	-	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	-
	企業業況判断D.I.	0	0	0	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-
	拡張系列数	2.5	4.5	3.5	2	2	3	5	5	4	1	3	1	5
	採用系列数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	先行指数	35.7	64.3	50.0	28.6	28.6	42.9	71.4	71.4	57.1	14.3	42.9	r 14.3	p 71.4
一致系	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+
	生産指数(鉱工業)	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-	r -	p -
	出荷指数(生産財)	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	r -	p -
	百貨店販売額(既存店)	+	-	+	-	-	-	+	-	+	-	+	r -	p +
	着工建築物数(鉱業、建設業用+製造業用)	-	+	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-
	輸入通関実績(原油及び粗油を除く)	+	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	r +	p +
	拡張系列数	5	3	6	3	3	1	4	2	1	1	4	2	3
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	一致指数	83.3	50.0	100.0	50.0	50.0	16.7	66.7	33.3	16.7	16.7	66.7	r 33.3	p 50.0
	遅行系	常用雇用指数(規模30人以上)	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-
完全失業率(逆サイクル)		-	-	-	+	+	+	-	-	-	0	0	0	-
消費者物価指数(総合)		-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+
家計消費支出(二人以上の勤労者世帯)		+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	-	-
生産指数(資本財)		+	-	+	-	+	+	+	+	-	-	-	r -	p -
拡張系列数		3	1	3	3	3	4	2	3	1	2.5	2.5	1.5	1
採用系列数		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
遅行指数		60.0	20.0	60.0	60.0	60.0	80.0	40.0	60.0	20.0	50.0	50.0	r 30.0	p 33.3

(注) 1 北海道経済部経済企画局経済企画課試算。pは速報値、rは確報値。

2 景気動向指数(Diffusion Index 略してDI)は、景気に敏感な諸指標を選定し、そのうち上昇(拡張)を示している指標の割合を示すものであり、景気局面の判断、予測と景気転換点(景気の高・谷)の判定に用いる。採用系列の各月の値を3カ月前の値と比較して、増加した時には+を、保合いの時には0を、減少した時には-をつける(変化方向表)。その上で、先行、一致、遅行の各系列群ごとに採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)をDIとする。

DI=拡張系列数/採用系列数×100(%) (保合い(0)の場合は0.5としてカウントする。)

最近の経済動向
平成30年12月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>